



み出しましよう。 す。しっかりと成人としての けです。しっかりと成人としての 人生」と題する話が予定されていと落語家三遊亭円遊の「わたしの郷土芸能春日神社太々神楽の披露す。このあと、北上青年団による 切とりさられて、自分の責任と判 県、市の政治に参加できる資格が それを自他ともに公認し、確認すだといわれます。「成人の日」は 二人から成人への抱負が語られま 代表の星野洋、藤井百合子さんの いや激励のことばがあり、成人者 式典」が行われます。この日、石県民会館ホールへお招きし「成人 男子の元服式とは違いますが、儀 断で行動することを要求されるわ のときのような法律上の保護は一 が与えられます。国政をはじめ、 し、国民として最も重要な選挙権 独立の社会人としての地位を獲得 に「満二十年ヲ以テ成人トス」と の重みを、いちばん身が引き締ます。◆ところで、権利とか義務 井市長、佐藤議長、白石教育委員 (くしあげ)などして、服装や髪上 得られたわけです。◆もう未成年 定められています。成人となった る日でもあります。◆民法第三条 る成人該当者は三千八百人。この 人の日に、前橋市で二十歳を迎え のようです。◆さて、きょうの成 形で成人したことを表現したもの める場面がありました。◆女子は 立派に成人した姿を気持よくなが にも「……初冠の御粧いかばかり 成人したばかりの男子が狩猟に出 ……狩に往(い)にけり。」と、 ◆伊勢物語の初めに「むかし、お に冠を着けるのが習わしでした。 かたがたは、この日から法律上、 るように思うのは二十歳の誕生日 長、大図選管委員長などからお祝 からうたく思召されけん。」と、 かける話がでています。平家物語 とこ、ういかうぶり(初冠)して 広報手帳 かたがたを、きょう午前十時から もとどりを結び、服装を改めて頭 い)」とか呼び、十二歳か「初元結(はつもとゆ 成人になったというしる から十六歳の間の正月に しに、髪を短く切って、 おこなわれたそうです。 「成人の日」。昔は男子 2

久家徳一 (東片貝町一〇八

でに「給与支払報告書」に、前年

中の給与所得の金額その他必要事

し込みは市内金融機関

~0



納付制度をご利用ください。 座振替制度≒が実施されま 新年度から、市税納付に 納期限は一月三十一日まで 。便利で、安全確実な、この です。お早めに納付しまし 今月の市税 第4期 **"** 

市役所

ts

い 採用予定日は、四月一日ですが 初級職員の電気・機械は十月一日 です。 市 民 の 茶 席 一月二十五日午前十時から午後 三時まで、中央公民館茶席で開き ます。茶席当番は前橋茶道会の島 田宗安さん。二月は十五日、当番	<ul> <li>□ 日本にない。</li> <li>□ 中込用紙店求先は、前橋市役所総</li> <li>新部人事課です。なお、郵便で用</li> <li>紙を請求する場合は、封筒の表に</li> <li>「職員採用試験申込用紙請求」と</li> <li>本書し、二十五円切手をはったあ</li> <li>てたき明記の返信用封筒を同封し</li> <li>てください。</li> <li>□ 一月二十日から二月一日までの</li> <li>執務時間内とします。</li> <li>ホム事課(電話24局一一一一内線</li> <li>ニーニンへ問い合わせてくださ</li> </ul>	□応募賓格 ① 初級職員は昭和二十六年四月 二日から三十二年四月一日までに 生まれた男子(ただし給食員は女子)③ 許または看達婦の資格を有する人 の介助員は昭和二十元年四月二日 以降に生まれた人で、養護教論 見は昭和二十五年四月二日 以降に生まれた人で、養護教論 見は昭和二十五年四月二日 は降の資格を有する人 の介助員は昭和二十五年四月二日 は降に生まれた人で、 くの介助員は昭和二十五年四月二日 は降に生まれた人で、 を本市に通勤可能な地域に住んで に たし、 給食員は本市居	市職員募集 市職員募集 申し込みは20日~2月1日まで 市では、次のとおり職員を募集 しますので、希望者は申し込みく ださい。 ①歌種・採用予定人員 ①初級職員(化学・電気・機 ①初級職員(化学・電気・機 ①初級職員(化学・電気・機 ①初級職員(化学・電気・機 ①お務職員(機械操作員・水 道技手)③労務職員(機械操作員・水 描言 近年 近年 近年 近年 近年 近年 近年 行の 第 第 1

賞与などを支払

時 主







の農民たちによる「中野御料地拝御料林に編入されたものの、当時明治二十一年に、いったん皇室るわけです。 千余町歩の貸付けが ようなかたちの をうして現在の 二十人の議員で され、関係市町 村組合」で管理 この共有林は 分担の基礎となって続いてきていれました。これが、現在の権利、数・馬の頭数を基礎にして納めら と呼んでいた)によって、中野借請願運動」(この辺一帯を中 当時の農民たちの馬の飼料となのがはじまりです。 南麓一帯の二、八二八・三ヘク・ 話は、古く江戸幕府時代にさ 氷郡八幡村を加えた八十三か村にな草原が、群馬郡八十二か村と碓ール(三千町歩)といわれる広大 対して幕府から入山を許可された きたのでしょう トルもあるこの高地 からは、高いところでは、海抜千三百 れた三百町歩の山林―。 いちば クロマツ、カラマツなどが造林さ ころ。ヒノキ、スギ、アカマツ、で、旧箕輪町から八キロ余りの上区の境を流れる久留馬川をはさ、 あるのをご存じです 連営されていま 現在、前記七市 崎、前橋をはじめ関東平野の **榛東村の七市町村の「共有林」** 名町、箕郷町、群馬町 「共有林」がで 帯、旧久留馬村、車郷村の両地榛名山の中腹から頂にかけての 、榛名興産市町 ところで、こ 村で組織す 榛名 る 群馬町、 いが許可され「中 山 高崎市、 吉岡村、 に th's

除止 音 実なゆた 見と た 十れで た て 伐 が 祝 に 分 十 の で て 利 係 町 社 し は し 構 に 在 オ 者 し 議 有 お み か ら 雑 。 円 て で た て 伐 が 祝 に 分 十 の で て 利 係 町 社 し は し 構 に 在 在 オ の く 会 林 、 な げ れ 木 介 い 配 木 て よ 昭 各 っ 三 引 ら 清 、 い 馬 が は っ は オ 努 有 を 」 年 い に る 林 り ま 当 の い る 和 村 て 十 の 十 明 い き 、 里 東 た 郡 、 変 て 町 げ	市町村で管理組合 「有林」としてきました。その後、この組合は二八二・八三 「大和地、植林地は個本によって貸付 非地、植林地は個本によって貸付 非地、植林地は個本によって貸付 「榛名興産町村組合」として名称を 」に広い下げら付 「榛名興産町村組合」として 「榛名興産町村組合」として 「榛名興産町村組合」として 「榛名興産町村組合」として 「榛名興産町村組合」として 「た」に払い下げら 「た」に払い下げられたらけで
---	--



時まで)市内学校教職員等による す。みなさんでお出かけくださ 「自作教材教具展」をひらきま - 午後四時半、二十三日は午後三 一十三日までの三日間(午前九時 教育資料館では二月二十一日~ ・一茶・啄木における 朔太郎 詩人とふる 3 2 2月27日~23日 文化講演会と 文化財保護のつどい

さんの「空っ風」と題する講演を 有者および一般市民百人です。 有者および一般市民百人です。受初公開します。対象は文化財の所 啄木における』と題する講演と

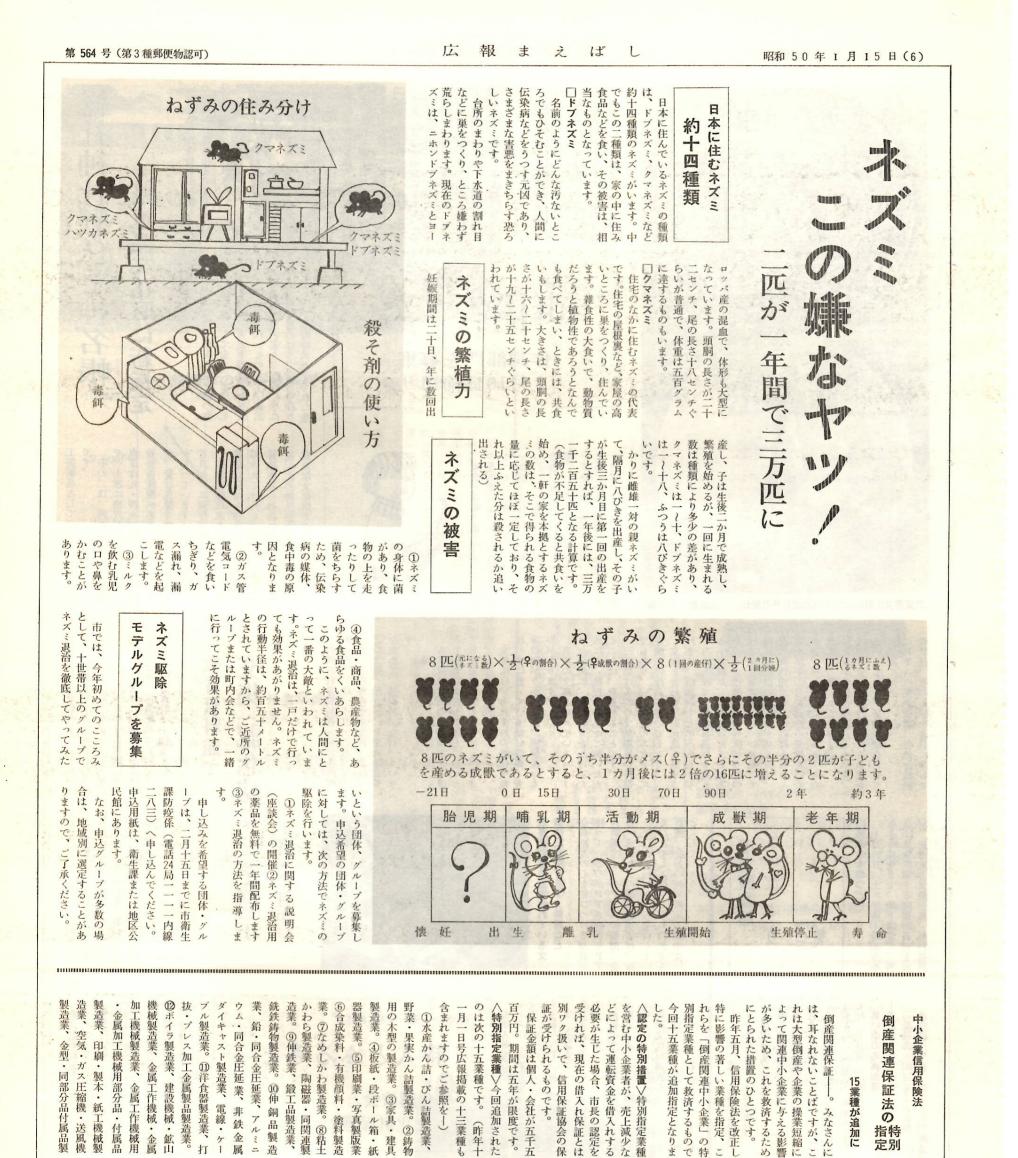
予定しています。<br />
入場は無料。

□上州再発見シリーズ

『埋蔵文化財調査のスライド』を

化財保護のつどい」がひらかれま 『詩人とふるさと―朔太郎・一茶 ・第一会議室で「文化講演会と文 前橋市立図書館長萩原進さんの

で。三階視聴覚室。 □スクリーン読書会 1月29日=母と子のおはなし教室 れ三十分間。三階視聴覚室。 れ三十分間。三階視聴覚室。 のしかたについて、一月二十四日 午後五時半から七時まで、三階視 聴覚室で「講師は前橋シネクラブ らきます。講師は前橋シネクラブ	



この蛹が、五月頃になると、雌 の原因となります。 そこで、冬の間に、この蛹を そこで、冬の間に、この蛹を そこで、冬の間に、この蛹を での蛹を今退治することは、八百 匹の牙メヒトの発生を防ぐ早道。一 踏みつぶすか焼き殺すかして、こ なります。注意深く見つけ出して なります。注意深く見つけ出して ださい。 すた、これらのアメヒトの発生 また、これらのアメヒトの発生 また、これらのアメヒトの発生 するに伐採したいものです。こ の不用樹木の伐採も、アメヒト防	そこその男人 「アメヒト退治」 「アメヒト退治」 「アメヒトリが大発生し、大 きな被害を受けました。 を作って、この中で越冬していま す。	保 に で に 音 で に 音 で に 音 で に 音 で に 音 で に 音 で に 音 で に 音 に 音 で に 音 に 音 で れ た 、 に 音 に う れ れ た た で の っ た 、 に て ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	▲ 「「「「」」」」」、「「」」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」



F		H 日	H	日吉町二丁目 平和町一丁目 南町三丁  33-1551 内 31-5834内児 21-3155		南町三丁目 21-3155 内	三河町一丁目 元総社町 24-3927 児 51-2800 外				城東町五丁目 住吉町一丁 32-7691 31-2625		日・祝日の歯
	月	16 日	B	朝日町四丁目	若宮町三丁目	紅雲町二丁目	the second se	千代田町一丁目	石倉町二丁目		太 田 医 院 本町一丁目 21-3680	沼 賀 弘 詮 高崎市相生町 *22-3358	4診療はここ で行っていま す。
		23 日	第4日曜	田 所 浪 子 三河町二丁目 24-3053内児	日吉町四丁目	南町三丁目	松 山 達 夫 大手町二丁目 21-5297 内	野中町	長 崎 憲 夫 住吉町二丁目 31-3274 外	若宫町二丁目	二 宮 貞 雄 住吉町一丁目 31-0749	高 平 一 夫 千代田町五丁目 31-3885	

幸作

滝 沢 幸

男

池田喜久治

赤沢達之

菅

野忠男

塜

田

穰中島

茂 樹

貫

春

山勝

祝

星野

郵便物認可)		広	報	まえ	ば	L	昭和 50	年1月15日(8)
談室 5? 0料金 #帯なのです 来るくみ取 はなく「お	市内には 総画 工芸 たど七十三件の文化財があります ので、市教育委員会と消防本部で します。 1月25日 二総社神社で消防訓練と 火災予防座談会。	るを目の	化財を大切にし、後世に残し、市 ように再現することのできない文 隆寺金堂が焼失しましたが、この	昭和二十四年一月二十六日に法 文化財防火デー	いたもちと、募金や募品を上毛愛	育成会 主… 「「「」」 有成会 主… 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」	7二百個 日吉町三丁 様化に役立ててほしい に満井恒輔代表取締役 た井恒輔代表取締役	⇒たたかい こころ 「一三、寺沢正義さんからパラ園 「一三、寺沢正義さんからパラ園」 の野島園へ。
入れるか 1金を多くと でしょう	j	周1回どり		燃せな	にいこ	ゴミ・キケン生	勿収集日	Carl Sale
にられている	月曜日	火曜日	a	水曜日		木曜日	金曜日	土曜日
いっれている。 いた、いた、いる。 いた、いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた、いた。 いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、いた、い	岩平和和町1-2 岩平和和町1-2 国 類 上 下 北 下 上 下 北 下 上 下 北 下 上 で 二 日 二 日 二 日 国 数 細 細 代 小 礼 朝 明 町 町 町 町 町 二 日 一 の 町 町 二 日 一 の の 町 町 二 日 一 の の 町 町 二 ら 井 井 田 田 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町	南和六 元大大石鳥 総総総間 池上青清 ○ 1 4 前二 六 元大大石鳥 総総総間 池上青清 ※ 単一	4 2 2 可 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町 町	三河京町 I ~ 4         河町町 I ~ 4         箱後前箱町町 I ~ 4         箱後前箱町町曲         町町町町         工         1         <	丁丁丁 町町町目町町町町町町町町町町町町町町	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	<ul> <li>金 唯 戸</li> <li>金 唯 戸</li> <li>大 町 1 ~ 3 丁目 千 町 町 1 ~ 5 丁目</li> <li>本 町 1 · 2 丁目</li> <li>本 町 1 · 2 丁目</li> <li>天 川 大 島 町</li> <li>女 上 島 町</li> <li>上 中 町</li> <li>上 中 町</li> <li>下 小 島 田 町</li> <li>彩 町</li> </ul>	工町 朝天天 上 勝朝 後 下宮西山中東 公 横 亀 鶴 新 下 力 徳 房 二 町 川 原 町 町 川 原 町 町 川 原 町 町 川 原 町 町 町 川 原 町 町 町 川 原 町 町 町 町
- し方」につ		12回どり			燃せ	るゴミ収集日		
La villa Dut		木曜日		火	曜と	金曜日	水曜と	土曜日
ケン物のな 灰」	国領町1~2丁目 大雪町1~3丁目 紅雲町1·2丁目 千日町1~4丁目 南三 (保町1)~4丁目 南 (保町1)~4丁目 南 (保町1)~4丁目 支 (場) 町 下町町町 下) 下 西町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町	前知福下上小古江光朝大大総総総部で、町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町	J J J J J J J J J J J J J J J J J J J	朝後西山中東亀鶴公橫新下力德房下勝小端 第後西山中東亀鶴公橫新下力德房下勝小端 に、神気	• 2 ~ 町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町	小嶺金元大石鳥上下北下上竜青荒日川田関川南天上女東上下野小駒坂 丸総友倉羽細細代小小蔵柳牧 輪端口根原橘大島屋 野磯磯 田形子 丸社友倉羽井井田出出寺柳牧寺端口根原橘大島屋 野磯磯 田町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町	岩神町1~4丁目 昭和町1~3丁目 平和町1・2丁目 住吉町1~4丁目 吉吉町1~4丁目 吉吉町1~4丁目 志町1~3丁目 表町1~2丁目 六供町 敷島町	泉富荒荒西東飯新二笂小下今下上下 沢田口子 室室井井 宮井 原島 井 屋田田 町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町町

吉をし で忠信の義、裳は腰から下につけ の言葉である。静かな知識人、元大きな吉祥がある。」これは易経 信の徳を以て君に輔佐して行けば 祥。国家至高の位に在る大臣が忠 る服で臣下の象。元吉は大きな吉 った。その意味は「黄は中央の色 辞典をみると「黄裳元吉」 において」と記している。 文にも「前橋市神明町、黄裳ンしたし、第二詩集「耽視」 れ、あたりには っそりとした、たたずまいであっ 板がかかっている。詩人の家はひ 0) しようげんきつ)という言葉があ る。書や絵には、必ず黄裳とサ 元吉が生前好んで使った雅号であ た。「黄裳」(こうしょう) に「黄裳寮」と書かれた 墨 々とした瓦茸き った。武家屋敷 通りへ抜ける細 目)、大正十四年神明町五十 いた。入口の脇 木枯しが舞って を思わせる、 が元吉の家であ ら二軒目、そこ る。北側の角か い静かな道があ いる。桃井小学校西門の前を県庁 いは、いまも当時のまま存在して こが永住の地となった。最後の・大手町二丁目)に転居した。 和十年の秋、 昭和四年神明町十五、そして、 北曲輪町十七(現・大手町三丁 家をふり出しに、大正十三年には 分、燠乎堂へも十数分という距離 であった。大正五年頃の神明町の 家も、不思議に県庁から歩いて数住居をしばしば変えた。いずれの 門。厚い扉は 高橋元吉は、 病のふるさ のばせるもの 黒 、南曲輪町六十二(現 庭 その生涯にお 高橋元 がある。 黄裳書屋 大漢和 (こう とも とは 字の 0 九 5 序 1 2

クリーン相談

高くとられる し尿くみ取り

<問>私の家は一般世 が、業者の人が徴収に り料金は人頭割料金でに 宅さんは便槽に 水を ら……」といって、料 られますが、どうして か。どうも、余分に取ら ような気がして仕方あ <答>あなたの家の便根 イレではありませんか。 レの場合は、構造上から なければその機能を果も になっていますので、 なく、し尿のくみ取量に 金を徴収してもよいこと います。まず、便槽の利 かめてください。また、 備、たとえば便槽にヒヒ り、そのため地下水が浸 くるような便所は、無臭 場合と同じように、くみ 応じて料金を徴収しても になっています。なお、 合は直接南部清掃事務所 局0020) へ問い合わせて

## 灰の出しかた

<問>正しい「灰の出し いて教えてください。 <答>冬場のゴミ、キケ かで比較的多いのが「灰 この「灰」を出すとき、 ンボール箱や肥料袋にぎ 杯出す家庭を見受けます とき、とても重くて、一 ち上げられず、収集車に のも容易ではありません 積み込みの途中、袋が破 ダンボール箱の底が抜け て、風で灰がとび散った ります。「灰」はビニー れてしっかり口をしばり 持てる重さにして出して い。あまり量が多い場合: つかの袋に分けて、火を すこともお忘れなく――

第 564 号 (第3 種郵便物認可)

いと・ソ 吉 私たちの前に残されているのだ。 物にしたしんだ、元吉の詩だけが の庭もいまはない。自然を愛し、植 の世界に漂った純潔の詩人の思索 の庭にはその苔はない。静かな苔 うな/あの春先の緑が眼に浮んで くる」(「石の上の苔」) 雑草を抜いて歩いたという。 まないように石づたいに、落葉や 朝、愛用のピンセットと、小さな 日は苔の手入れから始った。毎 苦労があった。こうして元吉の一 橋の地になじむには、それなりの 地帯から、埃りっぽい乾燥した前 新鹿沢へも足を運んだ。高地の湿 竹かごを持って庭におり、苔を踏 「あの石の上の苔も/冬に傷んで た。子供たちにと、少しの空地に などの四季の花をそこ で咲かせ くりに熱中した。欅、榎、楓を植 、色褪せ/乱れた/沁みてくるや えた。山茶花、バラ、霧島つつじ くりと時間をかけて、自分の庭づ 曲輪町の新居に移った時も、じっ は神明町五十九番地であった。南 に寄せた一文である。この時の家 た。レ も離れがたない思いをしたのだっ 去る時にはその庭にだけはいかに 会はなかった。…二三年後そこを これで三度居を移した。しかし... 満足のできるやうな庭に一度も出 りに楽しい夢をつないだ。「私は かく転居のたびに、元吉は庭づく こうした詩をよんだ。 1985  $\bigcirc$ 倉田百三の雑誌「生活者」 桃井小西門前にある元吉が住んでいた家 猿ヶ京、草津、 大沼、遠くは 榛名湖畔、赤城 めて楽しんだ。 ずらしい苔を集 さにひかれ、め った。苔の美し のは「苔」であ た。なかでも、 樹も忘れなかっ レモンなどの果 も柿、無花果、 501 こよなく愛した いま詩人 (38)题字·伊藤信吉

住

T